



モエワ★カムイ 71

NO.

JUN 2006

●モエワ・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。



あさひやまどうぶつニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

シリーズ

「ぼくは動物大使」

その32 雪原のダンサー

タンチョウ

2・3

特集

知っとこ！知床

4・5

飼育研究レポート

6

VETニュース

7

できごと
飼育動物数
編集後記

8

タンチョウ

Grus japonensis

ほくは、
動物大使
 その32 雪原のダンサー タンチョウ

タンチョウ

Grus japonensis

北海道東部、中国東北部とロシア極東部の湿地帯で繁殖。全体数は1600~2000羽が生息。

道東に生息する群れは留鳥（通年生息）で、日本で見られるツル類で唯一、国内で繁殖する種です。食性は雑食で、植物の根や葉、種、芽、トウモロコシやミミズ、カタツムリ、タニシ、エビ、ドジョウ、カエル、虫、ネズミの仔など多種で、特に夏は動物質が多く、冬は人が与えるトウモロコシが主要となっています。タンチョウはアイヌ語でサルルンカムイ＝「湿原の神」と呼ばれる北海道を象徴する美しい鳥なのです。

旭山のタンチョウ夫婦



丹皇 オス 20才 ノモ子 メス 12才

'03.4.9 釧路市動物園より 来園



頭

タンチョウの名の由来は、赤い「丹」いただき「頂」からきている。頭頂には羽毛がなく、血液が透けて赤く見える。



タンチョウの一年

<p>2~3月 あれほどヒナを大切に育ててきた親が、ヒナを冷たく追い払います。（子別れ）親は幼鳥を越冬地へ残し、繁殖地へ戻る。</p>	<p>3月 ペアは繁殖地へ戻り、鳴き合い、求愛ダンスで絆を深める。</p>
<p>1~2月 寒さの厳しいこの季節は、給餌場のトウモロコシを食べ、肌えをしにく。</p>	<p>4月 交尾、巣作りが始まる。巣はヨシで作られ、直径15~2m、高さ25cm。巣ができたら産卵。数は1~2卵。両親交代で抱卵。フ化日数は32日間ほど。</p>
<p>10~11月 親子で越冬地へ移動。12月には大きな群れになる。</p>	<p>5~6月 フ化。ヒナの体重は130gくらい。半日ほどで立ち上がる。自分で餌をとれるが、最初のうちは親が与えることが多い。</p>
<p>9月 親と同じ大きさになり、走りながら羽ばたき飛び練習。フ化後100日ほどで飛べるようになる。</p>	<p>7月 ヒナ、まだ親の翼の中で寝る。</p>
<p>8月 ヒナ、一人で立って寝る。</p>	

ツルの仲間

南アメリカと南極以外に15種が生息。うち日本では7種が確認されています。秋、九州に渡来するナベツルやマナツル、クロツルが有名です。ほかにはごくまれにカナダツル、ソデグロツル、アネハツルが渡来します。どの種も越冬のために渡来する冬鳥であり、一年中日本で見られるのはタンチョウだけです。学名で*Grus japonensis*＝「日本のツル」といわれるタンチョウはまさに「日本代表」の鳥なのです。

体

全長160cm
 翼開長240cm
 体重6~12kg

くちばし

硬くするどい。土に刺してミミズを捕ったり、魚をつまみ振り回してちぎったり、トウモロコシをつまんで食べたり、とても器用。

首

1m以上もある長い気管。ラッパのごとく数キロ先に届く大きな「ツルの一声」。

尾

黒く見えるが、あれは翼の三列風切羽。本当の尾羽は白くて短い。



日本で見られるツル



タンチョウ
 全長160cm



マナツル
 全長127cm



クロツル
 全長115cm



ナベツル
 全長96.5cm



ソデグロツル
 全長135cm



アネハツル
 全長95cm



カナダツル
 全長95cm

タンチョウ今昔物語 ~千羽鶴の今後~

江戸時代には本州でも見られたタンチョウですが、明治になり近代化が進み、越冬地である本州の湿地の消失や、狩猟による乱獲、また繁殖地は農地開拓により失われ、個体数が激減し、大正のはじめにはタンチョウは絶滅したものとされていました。

その後、ごく少数の群れが道東で確認されたの機に、1950年からトウモロコシをまく餌付けが始まりました。1952年には国の特別天然記念物に指定され、生息地の保全や地元住人の保護活動により、個体数も確実に増えていきました。最近の調査ではついに千羽を上回るまでに回復しました。しかし安心はできません。繁殖地となる湿地の開拓はいまだ止まらず、越冬地は過密状態で、ここに伝染病を持った個体が入れば、群れごと全滅してしまいますので、越冬地の給餌場を分散させる必要があるでしょう。また最近では農作物への被害も出ているようです。

タンチョウを守るには湿原を守る。また、そこに流れ込む川を守り、森を守る。「湿原の神」の未来は今、転機にきています。

特集 知っどこ！ 知床

アイヌ語で「シリエトク」＝(地の果えるところ)知床が2005年7月、世界自然遺産に登録され早、一年。手付かずの大自然と多くの野生動物が生息する知床。冬にはアザラシの繁殖地に、またオジロワシ、オオワシの越冬地でもあり、たくさんの魚も集まってきます。なぜこの地に多くの動物が集まってくるのでしょうか？キーワードは「食物連鎖」。そのサイクルをちょっと勉強してみましょう。

知床で見られるおもな野生動物



エゾヒグマ



エゾシカ



キタキツネ



エゾタヌキ



エゾリス



エゾモモンガ



エソクロテン



トド



ゴマフアザラシ



オジロワシ



オオワシ



オオワシ



秋、産卵のためたくさんのサケが川を遡上する。

それをヒグマが捕らえ、陸に運び食べる。食べ残す。

海の栄養分をたっぷりため込んだサケの死骸が、土に還り森を育てる。

豊かな森はエゾシカなどの動物をつつみ、川を育てまたサケがやってくる。

いのち
北の海から「生命のカプセル」がやってくる!!



冬、極東ロシアの豊かな森から、大量の植物プランクトンがアムール川の流れて、オホーツク海にそそぎ込む。塩分濃度が低くなった河口付近でシャーベット状の氷ができる。

冬の寒気で徐々に氷が大きくなり大量の植物プランクトンを閉じ込めた生命のカプセル「流氷」になる。「流氷」は知床半島付近で行き止まる。

暖かくなると「流氷」は溶け出し、中の植物プランクトンが海に漂い増殖する。

植物プランクトンを狙って動物プランクトンが集まり、それを狙って魚が、さらに魚を求めオジロワシ、オオワシやアザラシなどの海獣類が集まる。

知床が世界自然遺産に登録されたのは、そこで暮らす動物たちの「食物連鎖」と「流氷」がもたらす生態系のサイクルが評価されたようです。しかしこの流氷は、地球温暖化により年々薄くなり、量も減っています。もし流氷が来なくなったらどうなるでしょう？氷のゆりかごを失ったアザラシはどこへ？魚のいない海をオジロワシは越冬地を選ぶでしょうか？もっと身近に言えば、あの脂ののったホッケやタラバガニが食べられなくなり、ガリンコ号は過去の遺物に…。何より生命のリレーが途絶えてしまいます。知床は世界自然遺産に登録されましたが、これがゴールではありません。一番大事なことは、この生態系を守り続けること。私たち人間は真剣に取り組んでいかなくてはなりません。豊かな自然のために、たくさんの生命のために…。

エゾヒグマ とんこの冬ごもり

旭山動物園では現在、2頭のエゾヒグマを飼育展示しています。オスの「くまぞう」21才、メスの「とんこ」6才の年の差カップルです。くまぞうは1984年入園の古株、とんこは1999年入園で、どちらも野生からの保護個体です。くまぞうは前妻の年上女房「あさこ」に先立たれ、その後入れ替わるように「とんこ」が保護されました。残念ながら「あさこ」と「くまぞう」の間に仔はできませんでした。

野生のエゾヒグマは、発情期以外は単独行動で、5～6月に交尾をし、12～1月に巣穴で出産します。当園では野生と同じように、発情期だけ同居させています。3年前、「とんこ」もそろそろお年頃となり、「くまぞう」とお見合いさせてみました。この時は、交尾行動らしきことをしていたので、一応産室に閉じ込めましたが出産はなく、2年前は前年よりも交尾回数が多く期待をしていましたが、出産には至りませんでした。そして去年、さらに交尾回数が増え、見ていてかわいそうになるくらいいつく「くまぞう」が「とんこ」を追い回していたので「今回はもらったな!」と確信していました。

1月、そろそろ産室に閉じ込める時期が来ました。意気揚々と産室を作り、出産準備も整いました。いつもなら、産室に入るのをしる「とんこ」ですが、今回はすんなり入ってくれました。「うん、産みたがってるな!」勝手に期待が膨らみます。野性では冬ごもり中は餌を食べませるので、この期間は水だけ補給し絶食します。中の様子は小型カメラで観察でき、「とんこ」はとても落ち着いていました。予想では「1週間くらいで産むだろうなあ」と思っていたのですが、2週間経っても3週間経ってもその気配がありません。4週間目には落ち着きがなくなり、5週間目には産室を破壊し始めました。「またダメかあ…」そこで見切りをつけ「とんこ」を外に出しました。今回も残念ながら仔グマを見ることはできませんでした。その後、くま牧場の人と話す機会があり、いろいろ聞いてみると、「うちでも繁殖の確立は50%かなあ?」という言葉にあらためて「命の誕生」の難しさを知り「そんな甘いもんじやないな!」と痛感しました。

さて、今年も発情期がやってきました。これまでの経験とアドバイスを生かし、次こそ旭山初の仔グマの顔を拝みたいと思っています。(中田)



オス くまぞう



じゃれあう2頭



メス とんこ



交尾!!



産室



産室内

考えてみよう! ~スズメがいなくなったら...?

舌切り雀、雀の涙、雀の学校、スズメバチ(大きなハチ)、スズメノカタビラ(イネ科の草)、…。スズメがつく言葉はたくさんあります。スズメは、カラスと並んで最も身近な野鳥と言えるでしょう。

旭山動物園は、2004年まで傷ついて市民から持ち込まれた野生動物を保護し、野生に帰せなかった個体を展示したり、繁殖に取り組んだり、また「身近な自然」を伝えるため環境教育に活用してきました。旭山動物園は、スズメにはゆかりが多く、1998年には日本で初めてスズメの人工繁殖に成功しており、2003年には日本で初めてアトキソプラスマという寄生虫感染によるスズメ14羽の死亡事例を報告しております。

そのスズメの姿が、2006年の冬、旭川市を中心に全道各地で見られなくなったとの報告が相次ぎました。例年群れている住宅地、バードテーブルや樹林でほとんどあるいは全く見ない、という声が当園にも数多く寄せられました。スズメは、元々1年中同じ所で生活する「留鳥(りゅうちょう)」と考えられていますが、季節の変化に伴って夏は北方や山地、冬は暖かい地方や平地などと繁殖地と越冬地を区別して短い渡りをしているようです。ですから、姿が見られないと言っても、どこかに移動しているだけだろう、噂に過剰反応して気にし過ぎではないのか、などと考えていました。

そんな中、旭川市の住宅地でスズメの大量死が起こっていると報道がありました。当園にも複数が弱っていた、死体が階段下に転がっていた、などの情報が寄せられました。北海道に市民から寄せられた情報では、2006年1月頃から大量死が見つかっており、旭川と札幌を中心に全道で約1000羽以上が死亡しているとのこと。

さて、なぜスズメの大量死が起こったのでしょうか?

スズメを含む多くの野生動物にとって、冬は厳しい季節ですので、毎年ある程度の個体数は死亡しています。今年は異常に多いとすれば、それは自然災害か、それとも…。

スズメが100羽単位で大量死する事例は、これまでに関東や大阪でも台風などの自然災害により起こっています。しかし、旭川や札幌の今冬は、特別大寒波や大雪であったわけでもなく、直接の原因ではなさそうです。おそらく、今回の大量死は「人災」と考えられるのではないのでしょうか。鳥インフルエンザの影響で、多くの人々がバードテーブルでの餌付けを中止したことが少なからず関わっているようです。スズメは人がつくる餌環境に大きく依存しているため、餌不足は生存数に影響します。餌場が少なくなると、スズメは餌が多い場所に集中して密度が大きくなります。すると、人ごみで風邪をひきやすいのと同じで、感染症にかかりやすく、拡がりやすくなりますし、また中毒が発生したときには多くの個体が犠牲になります。

原因として、さまざまなことが考えられますが、1. 自然災害、2. 食料不足、3. 環境汚染(環境破壊、農業や殺鼠剤などを含む化学汚染物質による中毒)、4. 感染症(ウイルス・細菌・寄生虫など)に分けられます。一つずつ順番に検査が行われ、科学的な調査報告を待つこととなります。現時点では原因は不明で、回収された死体の質が悪い上、行政に専門家がないこともあり、調査は十分には進まず、原因究明は困難な状況です。

今年の開園時に、人に育てられたため親から外敵も餌も教わっておらず野生には帰せないスズメをカバの隣りに展示しました。私は、この展示を「スズメの学校」と名付け、人にかけてあげない尊い何かを教えてくれるだろうと願っています。外国のパンダやペンギンを守ることは大変なことですが、すぐそばにいるスズメたちを守ることは私たちにしかできません。

私は、今回のスズメに対する社会の大きな関心を身近な自然の大切さを再実感するきっかけにしなければならぬと思います。さらに、みんなで身の周りの自然を真剣に守ろうという意識が行政を動かし、もっと責任を持って自然保護に取り組んでもらいたいものです。

園内でも、例年冬には数多くのスズメが群がっていますが、今冬はやはり姿を見ませんでした。4月以降は、ちらほら姿を見かけるようになり、なんだかほっとしている感じがしています。スズメがそばにただで癒されていたのですね。(獣医師 福井)



スズメの学校

主なできごと

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------|
| 6月1日 シロテテナガザル老衰により死亡 | 9月30日 ワビチ頸椎骨折により死亡 |
| 6月12日 イワトビペンギン孵化 | 10月12日 レッサーパンダ衰弱により死亡 |
| 7月9日 フクロウ観察会 | 10月23日 夏期開園終了 |
| 7月21日 アムールヒョウ2頭来園
(広島市安佐動物園) | わくわくゲーム大会 |
| 7月28日 キングペンギン孵化 | 11月2日 ブラッサグェノン東武動物公園へ出園 |
| 8月1～3日 | 11月3日 「雪の中の動物園」開園 |
| サマースクール開催 | 12月21日 ケツメリクガメ受贈 |
| 8月2日 ジェフロイクモザル
日本モンキーセンターより来園 | 12月27日 アムールトラ採精 |
| 8月6日 「くもざる・かびばら館」オープン | 1月14日 ドブラ肺炎により死亡(老衰) |
| 8月11日 イワトビペンギン衰弱により死亡 | 2月24日 チンパンジー出産 |
| 8月12～16日 | 3月6日 シロテテナガザル市川市動植物園へ出園 |
| 夜の動物園開催 | 3月23日 アムールトラ採精 |
| 8月29日 ジェフロイクモザル, カビバラによる
咬傷で死亡 | |
| 9月3日～10月23日 | |
| 「外来動物展」開催 | |

飼育動物数

(平成18年6月末現在)

哺乳類	42種	197点
鳥類	83種	455点
爬虫類	11種	24点
合計	136種	676点

編集後記

モユクカムイ少しお休みの感覚しかなかったのですが、気がつけば一年も経っていました。ごめんなさい。昨年は旧ホッキョクグマ舎を改修した「くもざる・かびばら館」のオープン、そしてカビバラとの闘争によるクモザルの死、このことについてのたくさんの方の抗議のメールなどなど…レッサーパンダの立ち姿ブームの時に発した「見せ物にしないでね」発言でも抗議されましたが、

「仲よく」、「かわいい」を多くの方が求めているんだなと感じました。私たち人間社会で連日のように起きている信じられないような事件ですら、直視せずにオブラートで覆い隠すような社会になってきているような気がします。

今年は8月5日にチンパンジーの森がオープンします。チンパンジーのありのままをしっかりと伝えることができるでしょうか？



モユク・カムイ No.71 平成18年6月30日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
 発行 小菅正夫 <http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/asahi-yamazoo/index.html>
 編集委員 中田真一・島山淳・坂東元
 印刷 谷川印刷株式会社 〒070-0831 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653